

緑丘を去るにあたって

李 濟 民

1982年9月に国費留学生として小樽商科大学に迎えられた私は、1985年3月に修士課程終了後、韓国に帰国し延世大学の博士課程に進み、その後全州大学にて専任講師として勤めました。縁があって1989年7月に小樽商科大学商学部教員として再び商大に戻り、以後33年間商大一筋で研究者生活を終え、すがすがしい気持ちで緑丘キャンパスを去ることができました。ひとえに支えてくださった同僚の教員や職員の皆様のおかげです。

大学院時代には二人の恩師に教わりました。商大では山下隆弘先生、延世大では鄭球鉉先生から指導を受けました。山下先生からは理論面で深く掘り下げて研究することの大切さを学び、そして後に韓国を代表するサムスン経済研究所の所長を歴任された鄭先生からはグローバル視野で物事を捉えながらより実勢的に取り組むことの必要性について教えられました。商大で最初の15年間は商学科教員として研究活動を中心に、そして後半の18年間はビジネススクールの教員として、そのうち11年間はCBCセンター長及び産学官連携推進部門長として産学官連携や地域連携の仕事が無事務めあげたのは、お二人の恩師のおかげです。改めて深く感謝申し上げます。

現在、北海道のガストロノミーを広める活動を展開しています。2022年4月には実務家仲間たちと北海道産の食の付加価値と輸出を促進すべく「北海道ガストロノミー協議会」を設立し、活動を始めました。また、ガストロノミーを単なる美食ではなく、広い意味でフードロスを含む様々な課題を学際的に研究・調査するための組織として「北海道ガストロノミックサイエンス研究会」の発足を進めています。2022年11月に開催されたキックオフセミナーには学界や産業界から100人を超える参加者が集まり、活発な意見交換がなされました。

教授会の退任あいさつの際にも述べました通り、2022年4月以降も商大にて産学官連携のサポート活動と学部や大学院の授業を担当しております。緑丘キャンパスを本当に去ることは当面は難しそうです。引き続き皆様よろしくお願いたします。